

平成 27 年度

自己点検・評価書
(学校評価報告書)

大阪教育大学附属池田中学校

1 附属池田中学校の現況

(1) 学校名

大阪教育大学附属池田中学校

(2) 所在地

大阪府池田市緑丘 1-5-1

(3) 学級数・収容定員

12 学級(1 学年 4 学級) 収容人数 480 人(1 学級 40 人)

(4) 幼児・児童・生徒数

479 人(男子 238 人・女子 241 人) ※平成 27 年 5 月 1 日 現在

(5) 教職員数

校長(併任) 1 人 副校長 1 人 主幹教諭 1 人 教諭 19 人(うち、臨時的雇用 2 人
育児休業 3 人) 非常勤講師 7 人

事務職員 5 人(専任 1 人 事務補佐員 1 人 臨時的事務員 3 人) 臨時的用務員 2 人

2 附属池田中学校の教育目標

人権尊重の精神を基に、自己を律し他者との関わりの中で思いやりのある豊かな心を
培い、激しく変化する社会に主体的に対応し、国際社会に貢献できる、生きる力に満
ちた生徒の育成

3 附属池田中学校の使命

(1) 教員養成大学である大阪教育大学の研究校である。

(2) 大阪教育大学の学生の教育実習校である。

(3) 現職教育への奉仕をする学校である。

(4) 常に新しい教育理念と中正な教育的信念をもち、望ましい環境の内に個性を生かしな
がら、真の中等普通教育を実施することを目指している。

(5) 一般生徒、国際枠生徒(帰国生徒、在日外国籍生徒)、学校災害特別研究生徒からなる
混合学級で授業を行い、新しい教育の開発を目指している。

4 附属池田中学校の教育方針

(1) 自主・自律につながる学びの基礎・基本の確立

教員と生徒、生徒相互のよりよい関係を確立し、自由な校風の中、自主・自律の精
神を培い、自ら求め学ぼうとする態度の育成を目指している。

(2) 確かな学力の育成

基礎的・基本的事項を定着させるとともに、体験的、問題解決的な学習の充実をは
かり、学ぶ意欲や思考力まで含めた「確かな学力」の育成を目指している。

(3) 自他の文化の理解・共生の心の涵養

国際社会の中で、異なる文化を理解し、共に生きてゆける豊かな国際感覚をもった生徒の育成を目指している。

5 附属池田中学校の学校教育計画及び本年度の重点目標

(1) 共同研究「つながり，かさなり，ひろがる授業 ～「知」をはかる評価～」の推進および各自の研究力の向上

- ◎ 小学校・高校とのカリキュラムの連続性を意識した共同研究の推進
- ◎ 各教科・領域における評価(評価基準・評価規準)研究及び積極的な研究の継続・推進
- ◎ 国際バカロレア (IB) 教育の検討及び研究

(2) 授業力の向上

- ◎ 質の高い授業研究・研究協議会の充実
- ◎ 言語活動の充実，学校図書館・ICT の活用，生徒の思考力・判断力・表現力を育む授業づくり

(3) 安全・安心な学校づくり

- ◎ ISS 校，SPS 校としての取組の充実と国内外への発信
- ◎ 安全教育カリキュラムの確立
- ◎ 安全管理の充実

(4) 自主・自律の精神の涵養と様々な他者との人間関係を深める取組の推進

- ◎ 自己肯定感を育み，互いを尊重しあう人間関係の育成
- ◎ 異なる文化や価値観を認め合い，自他ともに大切にする態度の育成

(5) 生徒との信頼関係を基にした内面に迫る生徒指導，規範意識の向上と生活規律，学習規律の徹底，いじめや不登校への対応

- ◎ 生徒理解に基づく積極的な生徒指導の実施
- ◎ 生徒の規範意識の醸成および自他を尊重する集団づくり
- ◎ いじめ・不登校のない学校づくり

(6) 教育実習の充実

- ◎ 教職を望む学生の資質の向上

(7) 適切な組織運営，開かれた学校づくり，保護者・地域との連携

- ◎ 機能的・機動的な組織運営
- ◎ 開かれた学校づくりの推進
- ◎ 学校評価の充実
- ◎ 保護者・地域との連携

6 附属池田中学校 平成27年度 重点目標(評価項目), 具体的な取組内容(評価指標)・評価結果(その1)

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	人権尊重の精神を基に、自己を律し他者との関わりの中で思いやりのある豊かな心を培い、激しく変化する社会に主体的に対応し、国際社会に貢献できる、生きる力に満ちた生徒の育成	自己点検評価を主体的に行う分掌
学校教育計画	1. 共同研究「つながり、かさなり、ひろがる授業」の推進および各自の研究力の向上	

本年度の重点目標(評価項目)	具体的な取組内容(評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1)小学校・高校とのカリキュラムの連続性を意識した共同研究の推進	各教科において、小学校・高校と連携を図り、カリキュラムづくり・授業づくり・評価研究を行う。また、研究協議会の充実を図る。	・教科によって若干の温度差はあるものの、小中高合同教科領域部会場の場を設定し、議題について研究部の方から極力早めに通達することにより、各教科・領域で話し合いの場を持つことは定着できていると感じる。	・評価研究＝難しいこと、大変なことという意識を払拭するにはまず、中学校の教員の意識を変えていかねばならない。少なくとも自分たちが実施している評価については説明責任があることを折に触れ研究部からも発信していきたい。	B	小中高が同一キャンパス内にある特性を活かしたカリキュラムの連続性に取り組んでください。教科による温度差という課題の解決を望む。	B	次年度以降は小中高で取り組む意義等を明確にしながら進めていく(IBに関して等)
(2)各教科・領域における積極的な研究の継続・推進及び国際バカロレア(IB)教育の検討及び研究	①科学研究費助成事業(奨励研究)に10人以上応募し、30%以上の採択率を達成する。また、研修報告会を活性化し、学びの共有化を図る。 ②国際バカロレア(IB)教育について、全教員が共通認識をもちながら理解を深め、実施のための準備を検討する。	・昨年度12人、本年度10人と応募者数は確保できている。採択率は本年度はまだわからないが、昨年度は17%と芳しくなかった。研修報告会ではIB委員は率先して行っているが、他校の研究会に出席しているはずの教員からの報告が昨年度同様滞りがちである。	・採択率を上げるには内容の質を向上させる必要がある。科研に出すから何か研究を考えるのではなく、普段から研究を意識した授業づくりができるように、研修報告会等の充実を図りたい。また、色々授業実践しているにも関わらず出せない教員がいるのは応募の時期と忙しい時期が重なっているせいもあると思う。2学期末はとにかく3年担任が忙しいので少しでも気持ちに余裕ができるよう学校全体のフォローが必要かを感じる。	C	連続して応募者10人以上を確保できている。研修報告会の在り方について検討を求む。教員の皆さんには多忙を極める中で研究助成事業に取り組むことは困難を伴うと思われるので、できる範囲で目標達成を目指してください。	B	研究助成、研修報告については管理職、研究部、経験者が助言しながら意識付けを図り活性化させる。
			・来年度の実施に向けて非常勤講師へのフォローを年度末までに十分行っていく必要がある。また、1年に任せきりでなく、2,3年でも似た形式の授業を取り入れるようにもしていくべきである。	A	全学年における授業実践に期待する(新しい取り組みへの期待)。高校、大学受験との整合性がとれるか課題も多いと思いますが準備を進めていただけたらと思います。	A	IBは本校の大きな柱であるが、過重な負担にならないよう、他の取組と関連性を持たせ計画的に進めていく。

学校教育目標	人権尊重の精神を基に、自己を律し他者との関わりの中で思いやりのある豊かな心を培い、激しく変化する社会に主体的に対応し、国際社会に貢献できる、生きる力に満ちた生徒の育成	自己点検評価を主体的に行う分掌
学校教育計画	2. 授業力の向上	

本年度の重点目標(評価項目)	具体的な取組内容(評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1)各教科・領域の本質となる「知」を鍛える授業の実践	授業研究会を精選し、「評価」をテーマにした研究授業・研究協議を行うことで、授業研究会の質を高める。	・授業研究会(小)の回数を減らしたが、その分集中して参観でき、授業者にとっても研究授業の内容を深める余裕は出来たかと思う。また、司会者を同じ教科から出すことにより、討議の柱を立てたうえでの協議を進められるようにはなった。	・協議会で発言する教師に限られているのが最大の課題である。協議会で「質問」しないことは提案者にとってプラスではなくむしろマイナスにしかならない。発言する立場からも他の教師が次に発言しやすいよう「つながる」質問、話題提起を心掛けたい。	B	若い教員が萎縮することなく自由に意見表明ができる環境づくりに期待。協議会の議長(司会者)が発言を引き出す工夫をしてみても如何でしょうか。	B	討議のテーマを1つに絞ったり、各教科の共通したテーマを設定することで誰もが意見を出しやすい協議会をめざす。
(2)生徒の思考力・判断力・表現力を育む授業づくり	ICTを活用した工夫ある授業を展開し、生徒の学校評価アンケートから、90%以上の生徒に授業に関して満足感をもたせる。	・学校評価アンケートからも生徒の満足度が高いことが伺える。ICT機器の充実と、活用している授業を交流することで相互啓発につながっていることが効果を発揮していると思われる。	・ICT機器の管理・メンテナンスが情報担当に負担がかかりすぎている。情報担当は授業時間数の軽減を図るべき。また、教員・生徒の使用モラルの向上を図っていく必要もある。	B	ICTの活用に努められているが、一部の教員への負担が気にかかる。生徒にとっても満足感が高い。ICTに積極的に取り組まれていることは結構なことだと思います。	B	ICT活用についてはその効果と課題について研究を進めていく。また、メンテナンスについてはセキュリティを考慮しながら業者委託を検討する。

学校教育目標	人権尊重の精神を基に、自己を律し他者との関わりの中で思いやりのある豊かな心を培い、激しく変化する社会に主体的に対応し、国際社会に貢献できる、生きる力に満ちた生徒の育成	自己点検評価を主体的に行う分掌
学校教育計画	3. 安全・安心な学校づくり	

本年度の重点目標(評価項目)	具体的な取組内容(評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1)JISS校、SPS校としての取組の充実と国内外への発信	生徒会・保護者等と連携した組織的な学校安全の取組をさらに推進するとともに、国内外にその取組を発信する。	・PTA対象救急救命講習(中高PTA講師は中学教員)を10月に実施。33名の保護者が受講した。 ・I.S.S.及びS.P.S.認証校として、研修や学会等での取組報告。 ・登校に関して保護者、教員が連携して巡回(安全指導)を実施。	・救急救命講習に関しては、次年度も継続して実施し、普及させていく。 ・登下校安全指導に関して、下校指導(巡回)の定期的な実施を行い、継続して生徒の安全を見守る。 ・生徒会を主体とした学校安全の具体的な取り組みを、各委員会レベルでも積極的に立案、実行できるよう、各教員が生徒をサポートする。	B	保護者を巻き込んだ安全の取組はともよい。子どもたちが主体となった取り組みに期待。全国の学校の模範として、引き続き取り組んでもらえたらと思います。	A	継続したより質の高い取組を行いその効果と課題を検証するとともに積極的に発信していく。
(2)安全管理の推進及び安全教育の充実	学校安全マニュアルを改訂し、実際に即した年2回以上の防犯訓練、防災訓練の実施と評価の充実を図る。また、安全教育の系統的なカリキュラム化を図る。	・27年度改訂の学校安全マニュアルに即した6月、12月(教員対象、生徒対象の2回)の防犯訓練を実施した。実施前の振り返りも行い、実施後協議会の充実を図った。 ・安全教育に関して、教材の作成と検討は進めたが、系統的なカリキュラム化は完成に至らなかった。	・訓練(火災、地震、防犯等)に関して、危機意識に関して、低い様子もみられた。反省を生かした目標を明確化し、生徒教員ともにしっかり意識した上で、訓練に臨めるように事前指導を丁寧に行う。協議会、振り返りの更なる充実を図る。 ・学校保健安全委員会の充実と定期的な実施の中で、教材の整理とカリキュラム化を図る。	C	訓練に対する意識の低下は気になるところだが、安全管理に向けた取り組みはよくわかる。いずれ発生が予想される南海トラフ地震に対する備えが必要になってくるかと思われます。	B	南海トラフ地震を含め安全学習の系統的なカリキュラムをさらに進める。

学校教育目標	人権尊重の精神を基に、自己を律し他者との関わりの中で思いやりのある豊かな心を培い、激しく変化する社会に主体的に対応し、国際社会に貢献できる、生きる力に満ちた生徒の育成	自己点検評価を主体的に行う分掌
学校教育計画	4. 自主・自律の精神の涵養と様々な他者との人間関係を深める取組の推進	

本年度の重点目標(評価項目)	具体的な取組内容(評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1)自己肯定感を育み、互いを尊重しあう人間関係の育成	①生徒の学校評価アンケートから、90%以上の生徒に学校生活に関して満足感をもたせる。また、学級や学年の活動の場において、他者と関わり、互いの考えを交流したりする場面をできる限り設ける。	・「楽しい学校生活が送れている」の問い75.8%が「良く当てはまる」14.6%が「やや当てはまる」と答えた。90%以上の生徒が満足しているように思われる。「自分の考えをまとめたり、話し合ったり、発表する授業がよくある」の問いに77.7%の生徒が「よく当てはまる」18.5%の生徒が「やや当てはまる」と答えた。学校生活、授業面と満足しているようである。 ・項目1の「楽しい学校生活が送れている。」では90%以上の生徒が「当てはまる」と答えており、ある程度満足感をもって学校生活を送れていると考える。一方、項目15の「附中は、細かい校則はないが、生徒はルールをよく守っている。」では「当てはまる」が65%と90%を大きく下回っている。	・「楽しい学校生活が送れている」の問いに対して「良く当てはまる」が昨年に比べ少しではあるが、向上している。3年生ということで、楽しみ方や他者との関わり方を理解できてきているのではないかと。学習面での高め合いは十分である。学年集会でも自分たちで進め、他者と関わり、交流できてきた。あとは、進路について、自分の思いや、仲間の進路を受けとめられるような学活や集会を考え、卒業させたい。 ・多くの生徒は楽しく学校生活を送ることはできているが、一方でルール違反をする生徒への不満も感じられる。この不満は教師への不信感にもつながり、やがて学校生活を「楽しくない」と感じるようになる可能性があると考えられる。学校生活を送るうえでルールを守ることは必要不可欠である。生徒の心に寄り添った指導を心がけながら、生徒がルールを遵守することの大切さを実感できる機会を多くつくる必要がある。	B	アンケートの結果からも、生徒が日々の学校生活で目的を持って楽しく活動できていることが伺える。ルール違反に対する指導を徹底されて概ね好結果が出ている。生徒の学校評価がさらに高まることを期待する。	A	生徒主体の取り組みを、生徒会活動とクラスの連携を基盤とした組織的なものとしてさらなる推進を図る。

6 附属池田中学校 平成27年度 重点目標(評価項目), 具体的な取組内容(評価指標)・評価結果(その2)

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	人権尊重の精神を基に、自己を律し他者との関わりの中で思いやりのある豊かな心を培い、激しく変化する社会に主体的に対応し、国際社会に貢献できる、生きる力に満ちた生徒の育成	自己点検評価を主体的に行う分掌
学校教育計画	4. 自主・自律の精神の涵養と様々な他者との人間関係を深める取組の推進	

本年度の重点目標(評価項目)	具体的な取組内容(評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(2)異なる文化や価値観を認め合い、自他ともに大切に育てる態度の育成	①生徒の学校評価アンケートから85%以上の生徒に国際校生経験が活かされている実感をもたせる。また、国際理解の場の充実を図る。	・学校評価アンケート結果で、「あてはまる」が87.4%であり、国際校生経験の経験を生かす取り組みが生徒全体に理解され、実感をもたせているといえる。	・国際校生徒が発信できる場を今まで以上に与えたい。特に、掲示板を有効に使った方法による発信を考えたい。 ・来年度はオーストラリアからの生徒を受け入れ予定であるので、国際校生徒も関わることができるプログラムを考えたい。	B	今後の国際校生徒の活動の拡充に期待する。国際校生徒という貴重な存在をよく活かされていると思います。	B	国際校生徒の活躍、国際理解の高まりを図るための機会として、海外からの生徒の受け入れを推進させる。
	②真の自主・自律の確立、他者理解を深め、人としての誇りがもてる道徳教育を計画的・組織的に推進する。	・各学年の重点目標に沿って授業を実践できた。 ・多くの先生方に指導案作成、検討、実践し、授業の充実を努めていただいた。 ・共有データを活用し、授業にいかすことができた。	・教科化に向けた、評価の準備。 ・長期的な目標とは別にそれを鑑みたそれぞれの授業のねらいの明確化。 ・新学習指導要領の価値(22項目)に対する資料研究・開発。	B	道徳の時間に関する生徒アンケートの回答が少し辛口、今後に期待。道徳教育には批判もありますが、人としての基本を教えることは大切なことだと思います。	B	生徒の心に響く教材、道徳実践力につながる学習活動をさらに追究していく。

学校教育目標	人権尊重の精神を基に、自己を律し他者との関わりの中で思いやりのある豊かな心を培い、激しく変化する社会に主体的に対応し、国際社会に貢献できる、生きる力に満ちた生徒の育成	自己点検評価を主体的に行う分掌
学校教育計画	5. 生徒との信頼関係を基にした内面に迫る生徒指導、規範意識の向上と生活規律、学習規律の徹底、いじめや不登校への対応	

本年度の重点目標(評価項目)	具体的な取組内容(評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1)生徒理解に基づく積極的な生徒指導の実施	生徒の学校評価アンケートから、85%以上の生徒に教員の生徒理解に関して満足感をもたせ、体罰を感じる項目については5%以下にする。また、共通認識・共通実践および保護者・関係諸機関と連携を図った対応を図る。	・全教員で、生徒個々の理解に基づく、内面に迫る生徒指導を心がけ、実施した。必要に応じて、関係諸機関とも連絡を密にして、生徒の様子を見守った。 ・約75%の生徒が教員の生徒理解に関して満足しているが、25%は満足していないと回答している。また、約15%の生徒が体罰を感じているという結果になった。	・関係諸機関とも連携し、生徒個々に応じて丁寧な対応ができるように、今後も継続実施していく。 ・生徒一人ひとりに対して丁寧に対応するとともに保護者とも共通認識が図れるように、職員間の連携を密にして対応する。	C	保護者アンケートでも生徒指導については少し辛口。全ての生徒の抱える問題に対応することは実際問題として難しいことと思いますが、地道な取り組みを進めてください。	B	アンケートの継続した実施と分析、人間関係づくりの取組等、積極的な生徒指導の推進を図る。
(2)生徒の規範意識の醸成および自他を尊重する集団づくり	生徒指導委員会を軸に情報の共有化を図り、共通した指導を実践するとともに、生徒のリーダー性・自発性を育むように生徒会の活性化を図る。	・隔週の生徒指導委員会だけでなく、随時、管理職や学年とも連携し、情報の共有化をし、共通した指導を行った。 ・生徒会役員を中心に各委員会とも連携した取り組みができるように、自治委員会等を実施できた。 ・生徒会本部が主体となり運動部中心に生徒対象AED講習会を3月初旬実施(予定)。	・自治委員会も含めた、生徒会各委員会の活性化と充実。そのためには生徒自身の意識を更に高めていく必要もあるが、それ以前に各教員の意識も必要。方針等情報共有を積極的に図る。 ・安全面で生徒自身が自ら考え行動できるように、生徒会中心(生徒主体)でAED講習会や訓練・講習等を定期的実施していく。	B	情報が共有できているものと認識。生徒会によるAED講習会に期待。概ねよくできていると思います。	B	生徒会が企画・運営する場面をできる限り設定していく。
(3)いじめ・不登校のない学校づくり	Q-Uやいじめ等のアンケートを活用し、集団を評価、向上させる。また、「特別支援委員会」を充実させ、課題のある生徒の「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」を作成する。	・生徒会で学校生活アンケート(いじめアンケート)を実施。結果を生徒会でも考察し、生徒会(委員会)活動の指針として各活動を行った。	・生徒会全体のよりスムーズな情報共有がなされるような仕組みづくりが必要。検討する。	B	子どもたちによるいじめ撲滅のための活動は効果が大いと思う。いじめを受けていると感じるのは個人差もあると思いますが、全ての生徒が楽し学校生活を送れるよう指導していただきたいと思っています。	B	安全・安心な学校づくりを生徒が意識して取り組んでいけるよう支援していく。

学校教育目標	人権尊重の精神を基に、自己を律し他者との関わりの中で思いやりのある豊かな心を培い、激しく変化する社会に主体的に対応し、国際社会に貢献できる、生きる力に満ちた生徒の育成	自己点検評価を主体的に行う分掌
学校教育計画	6. 教育実習の充実	

(1)教職を望む学生の資質の向上	教科指導や学級指導において指導教員を中心に個々の教育実習生の課題を把握し、各教科・実習部・管理職・大学と協力体制をとる。	経験のある先生方のサポートもあり、一通りのことはできた。実習に来た学生たちとの関係づくりから、指示や実習のポイントとなる部分についてアドバイスをするなど、将来学校現場に戻ることを前提に教育実習指導を行った。	評価の厳しさの違いを最小限にとどめること、実習生の帰宅が深夜になることなどが検討課題である。実習生に計画的に期限を切って提出させることや、教科内から教員による評価のばらつきを無くす取り組みを提案していきたい。	B	よく努力されているが、教員の本来業務の負担とならないよう注意が必要(教員の労働時間にもかかわってくる)概ね良好な指導をされていると思います。	B	計画的な教育実習生指導が行えるよう教育実習主任を中心に学校組織として取り組んでいく。
------------------	--	---	--	---	--	---	--

学校教育目標	人権尊重の精神を基に、自己を律し他者との関わりの中で思いやりのある豊かな心を培い、激しく変化する社会に主体的に対応し、国際社会に貢献できる、生きる力に満ちた生徒の育成	自己点検評価を主体的に行う分掌
学校教育計画	7. 適切な組織運営、開かれた学校づくり、保護者・地域との連携	

本年度の重点目標(評価項目)	具体的な取組内容(評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1)機能的・機動的な組織運営	①保護者の学校評価アンケートで90%以上の保護者が教育方針等に対して満足感をもつような学校運営をする。	「子どもの様子についてきめ細かく保護者に連絡」「進路に関する情報提供」の項目で、満足度において80%を下回る結果となっている。その他では90%に近い数値で満足を得られる学校運営となっている。	個別の電話による連絡、学級・学年通信、ホームページなど、月1回以上は様々な方法で状況を伝える。進路に関する情報は年1回の「進路説明会」と3年対象の「進路講話」(2回)に参加しやすいようにアナウンスするとともに、説明内容をできる限り詳しく改善する。	B	改善点によりどの程度保護者からの反応が変わっていくかに期待。左記の改善点に記載されている対策をとられればと思います。	B	ホームページや保護者説明会等で学校の方針や取組、課題や依頼事項について積極的に情報発信する。
	②ミドルリーダーが各分掌においてリーダーシップを発揮し、学校組織として報告・連絡・相談の機能を充実させる。	学年・各分掌の主任がそれぞれにリーダーシップを発揮し、生徒の指導や教育上の諸問題に当たることができた。管理職への報告・連絡・相談も適切に行われ、組織として課題解決をすることができた。	今後も問題を抱え込む教員が組織の中にいないかという視点を、ミドルリーダーが持ち続ける。	A	ミドルリーダーが効果的な活動をしていることに感心。概ね良好に取り組みがなされていると思います。	A	学校の重点課題とその取組について、ミドルリーダーと共有しながら、さらなる学校運営の意識付けを行っていく。
(2)開かれた学校づくりの推進	学習評価等の規程や進路情報、公文書等を適切に発信する。また、学校HPのリニューアルを行い、より積極的、よりわかりやすい学校情報(学校評価を含む)を発信する。	「評価説明会」を年度初めに持つとともに、学級担任とも共通の認識を持って懇談での説明をしている。学校HPを7月にリニューアルし、より整理されたわかりやすい学校情報の発信をすることができた。	評価規程・シラバスなど、教科でのバラツキをそろえて、配付資料の中に盛り込む。	B	ホームページはとも見やすく理解が進んでいるものと思われ。概ね良好と思います。	B	ホームページの充実等、積極的な情報発信に努める。
(3)保護者・地域との連携	①保護者の学校評価アンケートにおいて、90%以上の保護者が授業参観や学校行事等に参加しやすいと感じるようになる。	95%の保護者が「附中の授業・行事・懇談に参加しやすい」とアンケートで回答している。	さらに内容を充実させて、参加しやすくと感じられる授業・行事を企画していく。	A	PTAが協力的であることが伺える。95%の満足度は非常に高い数値であると思います。	A	行事参加の意義等を伝えながらさらに取組を充実させていく。
	②PTA活動が活発になるよう学校として支援を行う。(保護者の学校評価アンケートにおいて、90%以上の保護者がPTA活動に対し満足度をもつ)	97.8%の保護者がPTA活動が活発であると回答している。	教員もPTAの一員として、PTA活動への参加率を高める。	A	教員の意識改革も必要。PTA活動の学校からの支援は随分前からいただいていると思います。	A	教員のPTA活動の参加をはたらきかける。